

比の語学学校と協定へ

学校法人 光星学院 短期留学の環境整備

国際的視野を持った人材の育成を目指す、八戸市の学校法人光星学院(法官新一理事長)は19日、フィリピンの語学学校「CNEI」と年内に包括協定を結ぶ方針を明らかにした。来年度から短期留学しやすい環境を整えるほか、高校と大学の単位連携も可能となる見通しだ。

八戸学院大の大谷正樹学長と八戸学院光星高の小野崎龍一校長が同日、八学光星高で開いた会見で発表した。

CNEIは、フィリピン北西部にあるマンツーマン指導型の語学学校。日本、フィリピン、韓国、ロシア出身の4人が2010年に共同で設立した。

現地の治安が良く親目的なことや、2週間で約11万円(宿泊費・食事代込み)と留学費用が割安なことなどを理由に選定した。

13、17日に現地を訪れた大谷学長は「アジア英語は親しみやすく、国際力強化には良いパートナーだ」と強調。18年度から短期留学を八学大の授業に組み込む方針で、系列幼稚園での親子留学や生涯学習への活用も視野に入れる。

八学光星高も、単位制を導入する18年度から短期留学プログラムを整え、生徒が八学大に進学した場合、取得した単位を引き継げるよう調整を進める。

小野崎校長は「希望する生徒を一人でも多く留学させ、国際的な学びの場を提供できれば」と述べた。

CNEIとの包括協定の方針を発表する大谷正樹学長(左)と小野崎龍一校長



(田村祐子)